

**第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）**  
**セッション討議内容の記録**

|                                      |                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| セッション名：都市周辺地域計画                      |                                                                                                                                                                                                   |
| 日付：11月 2日（日）曜日、セッション時間： 9：00 ～ 10：30 |                                                                                                                                                                                                   |
| 司会者名（所属）：森川高行（名古屋大学）                 |                                                                                                                                                                                                   |
| 討<br>議<br>内<br>容                     | <p>セッション全体：</p> <p>都市圏では、モータリゼーションの影響を受け、中心部での人口の減少と周辺部の人口増、ロードサイドでの店舗の増加、市街化調整区域や白地地域での開発などが発生し、問題となっている。本セッションではこれらの点に焦点を当て、いずれも実データを用いた実証的分析を行った研究が発表され、活発な討議が行われた。</p>                        |
|                                      | <p>（発表番号） 発表者名（所属）：</p> <p>（179） 片岸将広（日本海コンサルタント）</p> <p>ケーススタディの土地区画整理地区は施工後 40 年ほどたっているが、空き家が出だしたのはちょうど更新の時期と重なった影響はなかったのかという質問があり、その可能性はあるとのことであった。また、公共交通利便性と空き家化との関係について議論が行われた。</p>         |
|                                      | <p>（発表番号） 発表者名（所属）：</p> <p>（180） 毛利一貴（京都大学）</p> <p>分析方法について、3 次メッシュでは粗すぎるのではないかと、メッシュでの開発割合をわざわざ 0/1 の離散変数に直して被説明変数にしたことの意味などについて質問が会った。また、都市計画的土地利用だけでなく農用地を含めて分析することの重要性の指摘があった。</p>            |
|                                      | <p>（発表番号） 発表者名（所属）：</p> <p>（181） 伊藤慶太（埼玉大学）</p> <p>大規模店舗の立地が進む道路の混雑度が上がっているのは、立地側がそのような道路を選んでいるのか、大店によって混雑が進んでいるのかという議論があった。議論を深掘りしていくためには、店舗の種類、大店以下の規模の店舗の状況、路線全体での店舗面積などの分析が有効であるとの提案があった。</p> |